

令和7年4月30日発行

法人理念

人が人として人とともに豊かに生きる

基本方針

1. わたくし達は人との出会いを大切にします
2. わたくし達は思いやりと謙虚な気持ちを大切にします
3. わたくし達は個人を尊重し心優しい援助に努めます
4. わたくし達は社会福祉に貢献できるよう資質の向上に努めます
5. わたくし達は地域との信頼を深め開かれた施設運営に努めます



社会福祉法人 甲山福祉センター 西宮すなご医療福祉センター

〒663-8131 兵庫県西宮市武庫川町2番9号 TEL:0798(47)4477 FAX:0798(43)1022

HP: <https://www.sunago.or.jp> E-mail: mail@sunago.or.jp



児童発達支援

さくらんぼ



南條 真弘

「修了式、そして終了式」

現在、在籍4名の児童発達支援さくらんぼ。この春に3名の方が卒園されます。また、児童発達支援事業は一旦休止が決定しているため、2歳児1名は他の事業所へ移行となります。

3月28日(金)に、修了証書授与式とさくらんぼ終了式を開催しました。当日は卒園児2名が入院中で欠席になりましたが、前半はいつものように歌をうたって手遊びをした後に、スライドで1年間を振り返りました。この1年で、みんな心も身体も大きく成長したのがよく分かりました。ここで第1部が終了です。

第2部は修了式、そして終了式です。卒園児へ修了証書、2歳の在園児へもがんばった賞の証書が手渡され、2名ともお母さんと一緒にお返事をしてしっかりと受け取ってくれました。

一週間後の4月7日(金)には、退院された卒園児1名と入院中の卒園児の保護者が来てくださり、2度目の修了証書授与式を行いました。これでみんなが無事卒園されました。

保護者の方からは「母子通所でいろいろな事を教わり、他のお母さん方と交流もでき本当に楽しかった」と言葉を頂きました。みんな、それぞれの学校や事業所に行っても、さくらんぼで経験したことを忘れないでね!!

令和7年度事業計画

西宮すなご医療福祉センター

目指す姿

将来にわたり持続可能な運営を目指す

プラン1 その人らしく生きることを支援する

(1) 障害のある人が、安心して暮らせるよう、利用者本人中心の医療・障害福祉サービスを提供する、地域の基幹施設としての役割を果たすことを目指します。

- ①利用者の人権を尊重し、本人らしく安全、安心な生活を送れるよう、支援計画を作成し、個々の利用者に相応しい、医療、介護、療育を提供します。
- ②高齢化・重症化する利用者とその家族との関わりを深めるための、「想いをつなぐノート」を活用した(アドバンス)ケア・プランを作成します。
- ③入所、在宅、相談、医療の各部門が連携して、生涯にわたる切れ目のない支援を提供できる体制を整えます。
- ④障害医療を専門とする医療機関として、地域医療機関と連携し、医療サービスを提供します。

プラン2 仕事を通じて人を育てる

(1) 医療・介護・療育のスキルの向上に努め、より質の高いサービスを目指します。

- ①リーダーとなる職員を育て、個々の職員の育成課題を明確にした研修を計画・立案・実施します。
- ②認定看護師を中心に看護技術の向上を図り、より良い看護を提供します。
- ③強度行動障害支援者養成研修などの研修受講を奨励します。
- ④人権研修を行い、倫理意識の高い職員を育て、虐待防止・身体拘束防止活動を進めます。
- ⑤新人職員や未経験の職員が確実な支援を行えるよう、しっかりとしたサポート体制を作ります。

プラン3 利用者、職員の安全・安心を確保する

(1) 医療安全(感染を含む)対策

- ①誤薬など発生頻度の高い事故に対する具体的な再発防止に取り組みます。
- ②インシデント・アクシデントレポートの原因分析を行い、PDCAを活用した対策を実行します。
- ③標準予防策の重要性を周知徹底し、感染予防に努めます。
- ④抗菌薬の適正使用を含め薬剤耐性菌予防策を作成し実行します。
- ⑤医療メディエーターを養成し、事故やトラブル、クレームが発生した際、当事者同士の対話を促進し、関係の改善・維持を図ります。

(2) 虐待防止～ゼロを目指す

- ①不適切な対応、虐待などの早期発見、迅速かつ適切な対応を行います。
- ②虐待防止委員会やサービス向上委員会での報告・検証と職員全体への情報共有を行います。
- ③利用者の尊厳・人格を尊重できる研修を行います。
- ④職員が職場で孤立したり、ストレスを抱えたりすることを防ぎ、支えあえる職場づくりを進めます。

(3) 職員の定着と育成を目的とした働きやすい職場環境を整えます。

- ①新人職員が定着するようサポート体制をつくります。
- ②業務改善とサービス向上を目的に業務マニュアルの整備を行います。
- ③一人ひとりが自ら考えて根拠に基づいた実践ができるための研修と人財育成を行います。
- ④自己のキャリアを考え、職員の能力向上やスペシャリストの育成を継続し、勤労意欲の向上を図ることのできる研修を計画します(ラダー制や等級別指導計画の作成)。

- ⑤職場のハラスメントやカスタマーハラスメントなどへの対策を行い、安心して働くことのできる職場づくりを進めます。
- ⑥年間休日120日の検討を行います。
- ⑦外国人労働者の採用に向けた準備を進めます。

(4) 防災・危機管理の推進

- ①BCPの周知とBCMの作成を進め、防災や感染症マニュアルに沿った危機管理の徹底を図ります。
- ②サイバーセキュリティ対策を強化します。
- ③災害時等の食事提供について計画と訓練を実施します。
- ④総合防災訓練(年2回)に在宅利用者や家族の参加も促します。

プラン4

将来にわたり持続可能なサービスの提供の基礎をつくる

- (1) 内部統制の強化とコンプライアンス遵守を実行し、利用者、職員、関係機関からの信頼を高め、安定した施設運営を目指します。

- ①障害者施設等入院基本料の安定的確保
障害者施設等入院基本料10対1を堅持し、入所支援を安定的に運営します。
入所173床、看護師基準人員52名以上の確保・維持
- ②サービス内容を適宜見直し、利用契約書と重要事項説明書の記載事項を改めます。
- ③個人負担利用料を適正に見直します。

- (2) 築後20年を経過して、施設設備の劣化が著しいため、あらたに設備管理責任者を配置し、現状の評価を行い、施設整備を行います。

- ①空調・換気システムのEHP化に向けて、実施設計を行います。
- ②天井走行リフトの整備やIT環境の整備など労働環境の改善に向けて取り組みます。
- ③利用者の特性に配慮した病棟環境の整備を計画します。



目指す姿

存在感のある法人を目指す

プラン5

地域の人々が利用したいと
願うサービスを提供する

- (1) 在宅利用者に対して、ライフステージに沿った切れ目のないサービスを提供できるように事業を総合的に推進します。

- ①短期入所事業(併設6床、空床利用4床)
目標利用率 80%(8名)
- ②生活介護事業(つばさ)
目標利用率 86%(13名)
- ③重症児等児童発達・放課後等デイサービス事業(さくらんぼ:定員5名)
目標利用率 60%(3名)
- ④発達障害児等児童発達支援・放課後等デイサービス事業(ねっこ:定員10名)
目標利用率 80%(8名)
「動く医療的ケア児」を引き続き受け入れます。
- ⑤リハビリ課
1日目標単位数13.7単位
入所利用者の高齢化に伴う機能低下について対応する。地域向け研修会を行う。
- ⑥訪問看護事業(つくし)の実施
目標件数月平均490件
訪問リハビリは利用者ニーズに応えられるよう訪問件数を増やします。
- ⑦居宅訪問介護事業(つくし)
目標件数月平均470件
- ⑧医療的ケア児等支援事業の拡充
西宮市立学校園における医療的ケア支援業務
利用予定 5校(6名)
西宮支援学校への通学支援(看護師)
利用予定 2名
- ⑨医療的ケア児等コーディネーター事業
西宮市から医療的ケア児等コーディネーター事業を受託し、支援者の養成や相談支援の仕組み、地域のネットワークづくりに取り組みます。
- ⑩相談支援事業(あゆむ)
・特定相談支援事業
サービス等利用計画86件、
継続サービス等利用計画250件、
合計336件
・障害児相談支援事業

障害児支援利用計画43件、
継続障害児支援利用計画95件、
合計138件
・入所計画相談
担当 82名、
サービス等利用計画24件、
継続サービス等利用計画148件

(2) 地域医療への貢献

近隣医療機関との連携を進め、障害専門医療機関
として在宅診療に協力します。

プラン6

SDGs達成に向けた取組など、
これからの社会に貢献する法人を目指す

(1) 施設で暮らす障害者が地域社会の一員である
ことの理解を深めるため、交流拠点となるよう、
「開かれた施設」を目指します。

- ①法人内事業所(保育、高齢)との交流を図ります。
- ②地域住民が参加できる療育祭やバザーなどの
企画を進めます。
- ③地域住民が福祉に関する学びや相談ができる
企画を進めます。

プラン7

地域の福祉人材を育てる

- (1) 地域向け研修会を開催します。
- (2) ボランティアの受け入れを進めます。
- (3) トライやるウィークなど教育活動に協力します。
- (4) 専門教育機関からの実習生を受け入れます。

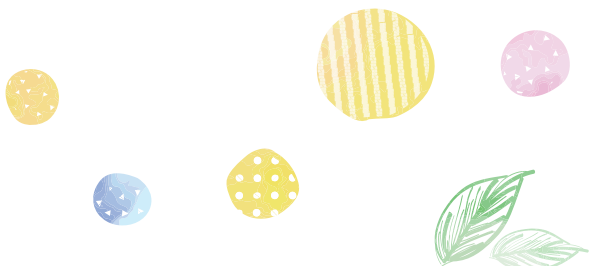
プラン8 人々に信頼される法人を目指す

(1) 医療・障害福祉サービスの報酬・基準管理の 徹底

- ①施設運営管理を担う事務部門に、あらたに役職
者を配置し、マネジメント力を強化します。
- ②内部統制を強化し、保険診療及び障害福祉サー
ビスにおける施設基準と報酬管理を担う責任者
を明確にし、各種関係法令を遵守します。

(2) 適切な財務管理の推進

- ①経営判断に資する財務情報の共有を図ります。
- ②各種補助金等を活用します。
- ③適正な入札、競争見積等の実施と随時契約内容
の見直しを行い、経営改善を図ります。

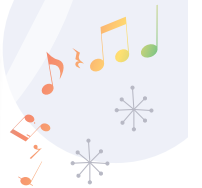


2階病棟

佐藤 愛紗

2024年11月から2025年3月にかけて、エンジョイ活動を全5回実施しました。参加利用者の5名は全員音楽が好きという共通点があったので、音楽あそびを楽しみました。大きい和太鼓やパドルドラム、シンバルなど、普段触る機会がない珍しい楽器に触れながら演奏を楽しみました。また、全5回を利用者・職員ともに同じメンバーで構成することで、初めは少し緊張していた方も3回目の活動から笑顔が見られる回数が増える等、慣れてくると盛り上がりながら実施できました。音楽は毎回2曲演奏し、『おもちゃのチャチャチャ』を固定曲で、もう1曲は『ジングルベル』や『バレンタインデーキス』などの季節に合わせた曲にしました。『おもちゃのチャチャチャ』は利用者それぞれにパートを割り振って演奏する機会もあり、自分のパートでタイミングよく音を鳴らしたり、曲が終わるタイミングで合図のように鳴らしたりと楽しんでおられました。

この活動を通して、利用者それぞれの好き(得意)な楽器が見つかり、充実した時間を過ごすことができとても嬉しかったです。



3階病棟

栗田 彩歌

3月10日に1グループの院内活動で、「ねこチーズをうばえ」というカードゲーム大会を開催しました。午前中は、カードゲームで使うカードに各々選んだシールを貼って可愛く飾り付けをして、昼食はガストのデリバリーで好きな物を選んで食べていただきました。また、とても天気が良く暖かかったので、昼食後はお散歩がてら近くのコンビニに行き、それぞれおやつ時に飲みたいものを選んで購入しました。活動日以前は、連日の寒さでなかなか外気浴をする機会が無かったため、久しぶりの外に眩しそうな表情をされたり、歌を口ずさんだりと、普段の生活ではなかなか見られない表情が見られました。

そして、メインイベントのカードゲーム大会です!! 4種類の「ねこカード」から1枚選び、「チーズカード」を獲得するゲームです。「チーズカード」がもらえる条件は、他の人と同じ「ねこカード」を出さないこと! たくさんのチーズをもらおうとすると被ってしまったり、少ない数のチーズを獲得しようとしても点数がもらえなかったり…と様々です。

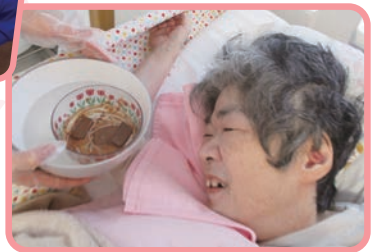
この心理戦に、これでもか! というくらい連続で被ってしまったり、意外とたくさんの数のチーズカードが被らなかったりと、大盛り上がりでした。



西病棟

皆川 さやか

西病棟では、2月13日に口腔機能係主催で「バレンタインパレード」を開催しました。経口摂取されている利用者にはチョコレートムースを提供し、あっという間に召し上がっていました。胃瘻を使用している利用者には、湯煎をしたチョコレートを綿棒ですくって唇や舌の先につけ、味や香りを楽しんで頂き、アレルギーがある利用者には、ココアやチョコレート味の口腔ウェットティッシュを用いる等して個々への対応を行い、全利用者がそれぞれに楽しめるように企画しました。また、病棟の職員だけではなく、リハビリテーション室の職員や歯科衛生士の方にもご協力を頂き、口腔内にチョコレートが残ったままにならないように、活動後には口腔ケアをして頂きました。利用者の方々はいつもよりしっかり口を動かして下さり、笑顔や発声がたくさん溢れ、参加して下さいた保護者の方から、「来年もして下さい」とのお言葉を頂ける活動を提供する事が出来ました。



4階病棟

坂本 紀美子

4階病棟では、2月のお楽しみ会で豆まきを行いました。ピンボールを豆に見立てて、ボールを持って投げられる利用者は直接投げ、投げるのが難しい利用者は職員が作ったピンボール発射装置を使って、ゴムを引っ張ってボールを発射してもらいました。鬼の仮装をした職員がフロアに現れると、「鬼が来たー!」「鬼は一外!」と言いながらみんなで豆を当てていきました。利用者はしっかり鬼の方を見て職員と一緒に狙いを定めてピンボールを投げたり、しっかりゴムを持って引っ張って、ピンボールが鬼に当たると嬉しそうに笑顔になり、手を叩いて喜ぶ方もおられました。また、保護者の方も発射装置を使いこなし、一緒にピンボールを当ててくれました。

そのおかげで鬼は退散し、福を呼び込んだ賑やかな時間になりました。



リハビリテーション室



小高 ゆかり

わくわく工房では年間を通して制作活動を行っています。先日のマルシェでは、通所支援室と共同で出店させていただきました。

また、夏と冬に修了式を行い、いつも集中して取り組んでいる制作活動とは別に、メンバーで楽しみ労う時間を設けています。今回は冬の修了式が予定よりも遅くなってしまったため、「①いつも使っている手を労わろう!」「②季節は2月、バレンタイン前にチョコレートづくしで楽しもう!」をテーマに、お仕事をしているメンバーの手に“いつもありがとう”と気持ちを込めて、シュガースクラブで角質を落とし、チョコレートパックで肌の保湿や柔軟性を高めました。はじめは何?何?という表情をしていたメンバーも、だんだん気持ちよくなってきた様で、笑顔がいっぱいでした。そして最後にチョコレートデザートを食べました。マッサージをしていた職員も、お湯の温かさやチョコレートの香り、メンバーの笑顔に癒された修了式になりました。



訪問看護ステーション



藤本 幸子

訪問看護ステーションつくしは、障害があっても自宅で自分らしく暮らしたい、子育てしたい、そんな普通の願いを叶えるため、常勤看護師8名 非常勤3名 PT2名で、0歳から59歳までの利用者71名の生活を支えています。

在宅ケアの対象者は急増し、しかも重症化・多様化し、医療ニーズの高い方が増えています。つくしの利用者の中でも、47名の方が何らかの呼吸管理を必要としております。主な支援内容は、子どもたちの病状観察、医療機器の管理や清潔援助などで、利用者やご家族の生活を支援しています。看護師として行う医療の提供は同じでも、利用者やご家族がどんな看護を望んでいるのかを、在宅という限られた空間と資源の中で汲み取り、臨機応変に対応する柔軟さとコミュニケーション能力が非常に大切になります。

春になり、子どもたちは進級、進学を迎えています。子どもたちの成長を見守れるのも在宅支援ならではの。私たちも環境の変化に対応し、健やかな成長の手助けができるよう支援していきたいと思います。



児童発達支援室



下吉 真理

児童発達支援事業『ねっこ』では、お店屋さんごっこを実施し、大盛り上がりでした。

まずは、一人ひとりが「作りたい」と思ったものを、廃材や画用紙などの教材を使って作ります。どうやって作るかを、お母さんや職員と一緒に考えたり、「こうしてみよう!」と自ら思いついたりして、オリジナルティーあふれる商品が次々と出来上がりました。

そして、その素敵な商品を机に並べて今度はお店屋さんです。お財布を持ってやって来たお客さんと「これ下さい」「ありがとうございます」などの接客や、「〇〇円です」「おつりです」といったお金のやりとりを楽しむ光景が見られました。その後、終わりの時間になっても「まだしたい!」「もっと作りたかった」と、まだまだ遊びたい気持ちが溢れていましたが、きちんと折り合いをつけることができ、自分たちで作った作品を紙袋に入れて大切に持って帰りました。

お店屋さんごっこを通して、制作はあまり乗り気になれない子が、すごい集中力ではさみを使っている姿に、職員もうれしい発見となりました。



院内実践研究発表会



K氏の持っている機能を活かした活動の確立

K氏は入所時から余暇時間に好きなDVDを視聴しており、視聴時は笑顔が見られたり、動画が止まると泣いたり怒ったりする姿が見受けれます。このことから、視覚に問題はなく、快不快の表出もできていると思われます。しかし、DVD視聴が長時間になると、生活習慣だけでなく、人との関わりが減る事により発達に必要な愛着形成への悪影響も懸念されます。職員もDVD視聴ばかりではK氏の発達に好ましくない事は理解していましたが、関わりの内容を見直せていなかった為、今回「K氏の持っている機能を活かした活動の確立」について取り組みました。取り組み後は、絵本や玩具を用いて職員と過ごせる時間が増え、生活の楽しみができました。玩具に自ら触れ音を出せた時に、職員から褒められると笑顔が多くなりました。K氏の反応は職員にとっても喜びとなり、K氏に対する意識の変化に繋がったのではないかと考えます。今後もこの取り組みを継続し、K氏が楽しめる玩具や活動を増やし、職員との関わりを深めながら、K氏にとってより豊かな生活に繋げていきます。



西病棟
岡村 泰典

強度行動障害の人に対して正確な血圧測定を行うには

4階病棟で生活されている利用者の中には、強度行動障害と判定された方が20名います。今回対象とした3名の方は、特に活動量が多く、血圧測定中に体動、手指の動きを止めることができない、マンシエトを巻くことに拒否がある等、測定が困難になる事が度々あります。

このことから、強度行動障害の方に対しても、短時間で測定でき本人のストレスが少ない方法を検討した結果、スマートウォッチが血圧計の代替となるのではないかと考え、2か月間実施しました。

取り組みを実施した結果、スマートウォッチは医療機器ではないですが、散布図を用いて比較すると、測定値にはばらつきが少なく参考値として十分に役立つものであり、強度行動障害の方にとっても受け入れやすく、異常の早期発見や血圧の推移を知ることに役立つツールのひとつといえると考えます。



4階病棟
松岡 敏洪

重症心身障害者施設における視線入力型意思伝達装置による自己決定支援について

現在3階病棟では、意思決定支援を強化する取り組みが進められていますが、利用者の思いやニーズを十分に汲み取れず、支援者の思い込みによる判断で支援を提供する場面が少なくありません。そこで、現在ゲームとして活用しているアイトラッカーを用いて、自己決定支援が実現可能かどうかを探りました。

アイトラッカーを用いた取り組みでは、個人差はありましたが、利用者の興味・関心のある事柄に対しては2択から選択することができ、意思決定を支えるツールとして有効であることが分かりました。またセラピストと共同で研究に取り組んだことにより、利用者の状態に合わせた環境設定を工夫することができました。

今後もセラピストと連携し、より多くの利用者がアイトラッカーを通じて意思決定できる可能性を広げていきたいです。



3階病棟
森本侑里恵

白湯先注入による消化管蠕動運動の促進効果の検証

2階病棟では胃瘻・経鼻チューブによる栄養管理を行っている利用者がおり、その際の問題点として、長期臥床や抗けいれん剤による慢性便秘症が挙げられます。

今回その問題解決のひとつとして、胃や腸の動きを活発にして消化を促進させ自然排便を促す事を目的に、注入時に白湯を先に注入し、その後に栄養剤を注入する方法を実践しました。しかし、今回の研究では研究期間が短期間であった、長期臥床や薬剤による消化器機能の低下等から、十分な結果を得る事は出来ませんでした。

今後は注入スピードや白湯・栄養剤の温度の統一、体位の工夫など改善点を検討し、利用者が少しでも安楽な排便コントロールが出来るように支援していきたいと考えています。



2階病棟
大村里美

実践報告 排便ケアチームの取り組み

重症心身障害状態にある方はいわゆる「排便困難」な状態にあり、また、イレウスや腸閉塞などの恐れがあります。そのため、とにかく「便を出す」ことが重要視され、緩下剤によって便性状が緩い状態であることや刺激性下剤の常用、浣腸という侵襲的な処置が日常的に実施されていることについて見直されず、気がつけば毎日大量の浣腸を実施することが常態化していました。その状態を改善する目的で、2021年からアイソカル®ファイバーを導入し数年が経過しました。2023年にも一度経過報告を行いました。今回はその後どのように変化があったか振り返りました。結果、緩下剤の減量や浣腸回数の減少は見られたものの、まだまだ利用者にとって「快適な排便」とは言えない状況でした。

今後は、利用者の状態をアセスメントし、「この浣腸は本当に必要か？」を判断できる看護師の育成が課題と考えます。



研修室
三井丘子

実践報告 医療的ケア児の学校支援の実際 ～学校支援看護師の役割～

西宮市は福祉が充実していることもあり、医療的ケア児は支援学校だけではなく、公立の小中学校への通学を希望する方が増えています。当センターでは、公立の小・中学校、合計5校へ看護師を派遣しており、医療的ケア児7名にケアを行っています。

今回の実践発表では、医療的ケア児がどのように公立の小・中学校で学校生活を送っており、学校支援看護師がどのように関わってサポートしているのかを報告しました。学校支援看護師は、医療的ケア児が安心して教育を受けられるように、医療的ケアの実施や環境を整えるという役割を担っています。これまで宿泊を伴う修学旅行等へも同行し、医療的ケアを行ってきました。保護者や学校関係者と協力し合っていくとともに、どのような場面でも適切な支援を継続できるようにしていきたいと思います。

今後も、学校支援看護師として、医療的ケア児やご家族に寄り添い、様々な事象に対応できるよう自己研鑽していきたいと思います。



在宅支援課つくし
中本昌代

令和6年度 グッドジョブ賞の表彰

総務課 小川 悦 司

グッドジョブ賞は、当センター内で通常業務にとらわれず活躍をした個人や団体に贈られる賞で、3月14日に表彰式を執り行いました。受賞者からは「来年も楽しんでもらえるよう考えます」、「うれしく思います。今後も続けていきます」等のコメントがありました。

【個人の部】

○通所支援室 つばさ 皆吉 直美さん

通所利用者が楽しく園芸活動ができるように、花や野菜を丁寧に育て、収穫の楽しみを味わえるように準備をしてきました。



【団体の部】

○療育部

ファンタスカーによる素晴らしい映像の提供やイルミネーションの設置により、少しでも季節を感じ取れるように鑑賞会を実施するなど、外出等制限が多い生活を強いられていた利用者にとって新たな体験を提供し、生活を豊かにすることに尽力しました。



令和7年度 新任職員自己紹介コメント



看護師
濱田 陽子
<R7.4.1>

愛知県から来ました。趣味は料理と旅行です。病院とは違う環境に戸惑いもありますが、これから新しい学びと出会いがあることにワクワクしています。

利用者の方々との関わりを通して、少しでも成長できるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



看護師
上田 奈々
<R7.4.1>

利用者の皆さんが安全に楽しく毎日を過ごせるような関わりをしたいです。

よろしくお願いします。



看護師
近藤 千紗
<R7.4.1>

高知県の大自然の中で生まれ育ち、10年ほど前に関西にきました。人と話ことが大好きで、人との出会いを大切にしています。

新しい環境で少し緊張していますが、笑顔を忘れず頑張っていきたいです。

よろしくお願いします。



看護師
福田 ころ
<R6.6.1>

2024年6月からお世話になっております。利用者、職員の方々と楽しくともに過ごしていけたらと思います！

よろしくお願いします！



生活支援員
森垣 有菜
<R7.4.1>

4月から生活支援員として働かせていただきます。職員、ご利用者の皆様に信頼していただけるよう、明るく一生懸命頑張りたいと思います。

ご迷惑をお掛けする事も多々あると思いますが、よろしくお願いいたします。



看護師
長住 朋美
<R6.6.17>

西病棟で働いています、長住 朋美です。以前は鳥取の重心施設で3年間働いていました。そこでは18歳未満の子供たちを看護していたのですが、その後施設に移行した子供たちはどのように過ごしているのかより深く学びたく、西宮すなご医療福祉センターへ来ました。

今後ともよろしくお願いいたします。



看護師
岩本 牙
<R6.7.1>

慣れない事ばかりでご迷惑をお掛けすると思いますが、明るく元気に一生懸命頑張ります！
よろしくお願いします。



看護師
中村 萌々
<R6.10.1>

少しでも戦力となれるよう、精一杯頑張ります。
よろしくお願いします。



看護師
西山 祥季
<R6.7.1>

昨年の7月から入職した西山です。関西で生活するのも初めてで、慣れないこともあります。笑顔を保ちながら楽しく仕事をしたいと思っています。
よろしくお願いいたします。



看護師
川野 未夢
<R6.11.1>

2024年11月より当センターに入職した川野 未夢です。

前職では急性期病院で小児科・泌尿器科・循環器科・婦人科等の病棟で働いており、その後1年間オーストラリアにて高齢者施設で働いていました。

これまでの経験を活かし、健康と安心のために楽しく精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



看護師
大坂 直輝
<R6.7.1>

昨年の7月から4階病棟で働いています、看護師の大坂 直輝です。
重症心身障害児(者)の方と関わることは初めてですが、しっかり勉強していきたいと思っています。
また、何かあった際は声を掛けてもらえたらと思います。
よろしくお願いします。



看護師
中村 真知
<R6.11.1>

11月から西病棟で勤務させていただいております。医療福祉センターでの業務は初めてですが、早く仕事を覚え皆様のお役に立てるよう、前向きに頑張っていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



理学療法士
杉崎 靖親
<R6.7.1>

リハビリテーション室の理学療法士の杉崎です。入職してから1年が経とうとしていますが、まだまだ分からないことも多いと思います。
精一杯がんばっていきますので、よろしくお願いいたします。



看護師
川元 菜月
<R7.3.1>

初めまして、3月から2階病棟で働いています、看護師の川元 菜月です。

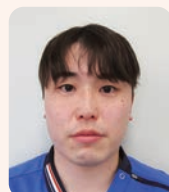
先輩方に優しくご指導いただきながら日々働いています。

利用者の方々との関わりの中で、その方が心地よいと思う表情を引き出していきたいです。



看護師
大江 美菜
<R6.8.1>

2024年8月から4階病棟で働いています。重症心身障害児者の病棟は初めてで、まだまだわからないことだらけですが、学びが多く楽しく働いています。教えてもらうだけでなく、これまでの急性期病院での経験を活かし、皆さんに還元していきたいと思います。



生活支援員
井上 遼太
<R7.3.10>

3月より3階病棟に配属となりました生活支援員の井上です。

利用者様一人ひとりの特性を覚え、寄り添った支援ができるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



〃善意、令和7年2月～令和7年4月

寄 付 金

(順不同 敬称略)

2月 木田 都司子

3月 西宮すなご医療福祉センター 保護者会
重症心身障害児(者)を守る会 小山 京子
神戸女学院チャプレン室

利用者様の作品紹介

西病棟 山口 文菜

今回の制作は、書初めと福笑いです。書初めでは利用者それぞれに台紙の色を選んでいただき、職員と一緒に今年の目標を考えて書きました。しっかり筆を握り、目標の案に発語や挙手で答えて下さるなど、元気に取り組まれていました。完成したものは病棟の壁に展示し、自分の作品や他の方の作品を見て楽しんでいました。

また、お楽しみ会では福笑いをしました。台紙やパーツはフェルトで出来ており、利用者の自発的な動きに合わせてどの角度からも貼り付けやすいようにしています。納得がいくまで位置を調整する方もいれば、思わぬところに付いたのか驚いた表情や、絶対にここに貼る!と笑顔でおでこの位置に鼻を貼るなど、三者三様な様子が見られました。完成したものもじっくり見つめ、笑顔が見られるなど楽しく和気あいあいとした時間でした。



編集後記

暖かな春の日差し、色とりどりの花が咲きそろう季節となりました。

今年度もみなさまに楽しんでいただけるようなセンターの様子や活動などをお知らせしていきたいです。

よろしくお願いいたします。

上村 裕美

すなごDEマルシェ

西病棟 前川 美佳

3月23日の日曜日に開催しました第5回すなごDEマルシェは、春の訪れを祝う素晴らしいイベントになりました。

このイベントは、地域の事業所の皆様のご協力のもと、手作りの布製品・焼き菓子・オリジナル文房具等の販売をしています。

今回の出店は、なかよし工房、ワークキューブ、プリモ芦屋、ヴィ・リール、すなご家政室、初出店のコーヒESHOP ACCEPTECOFFEEROASTER(S)、夙川作業所、訪問衣類販売の丸福、通所支援室つばさ(順不同)にご協力いただきました。本当に有難うございました。

利用者・家族・すなご職員の笑顔が溢れるこのマルシェでは、出店者との交流や新たな発見があり、訪れる人々にとって心温まるひと時になったのではないのでしょうか。

このようなイベントを通じて、地域社会との繋がりを大切にしながら、皆で春を楽しむことができて良かったです。

